

令和元年度 指導法研修会 「器械運動部会」

授業者 : 三郷町立三郷北小学校 赤濱 雄一先生

【授業研究Ⅲ】

◇日時・場所 11月21日(木) 13:45～ 三郷北小学校

◇題材・学年 「目指せ! 跳び箱名人!」 6年生 跳び箱

◇協議内容の概要

☆授業者より

- ・5年生の時には跳び箱運動を経験しておらず、事前アンケートでは、台上前転が「できる」と回答したのは、3分の1程度であった。
- ・ICTについては、十分に活用できていたと考えている。
- ・ワークシートの図を見本とし動画をコマ送りにして、どこが違うのかを比べながら振り返りをしていた。
- ・グループ活動では、6人グループをさらに細かく分け3人1組とした。台上前転ができる児童を一人ずつ入れて異質グループを構成した。
- ・スキルアップタイムについて、本時では課題の克服をメインにおいた。毎時間、動画を撮っておらず、技能を重視したり、動画を撮影したり単元の中でもねらいに応じて時間配分を工夫した。
- ・安全面について、マットの数には限りがあるので、跳び箱の横には簡易なマットを置いた。
- ・ICTは有効だったが、運動量が減ってしまう。そして、知識がないと相手に伝えたり、教え合ったりすることができない。
- ・主体的に学ぶことはできていたと思うが、深い学びにつながっていたかは課題が残る部分でもある。

☆質疑応答

Q: 児童がどれだけ自分の課題を意識できていたか。

A: これまでの取組の中では、1時間で終わるところを少し延長して取組を行ったこともあったが、本時のめあての「膝を伸ばすこと」は意識できていたと考える。どこの場で練習すればよいか、振り返りにどのようなことを書いたらよいかを伝えながら課題を意識づけできるようにしてきた。

Q: 膝を伸ばすための知識を前もって教えていたのか。指導案には「確かな知識をもって…」とあるが、子どもたちはできている子の動きを参考にしていたように感じた。

A: 学習カードを活用していたが、できている児童の動きを見ながら知識を得ていた子どももいた。子どもどうしても「よかった」「できている」というチェックだけでなく、どうすればよいかというところまで伝えられるようになってきた。

Q: 感覚づくりの運動は繰り返し系と回転系で変えていたのか。

A: 全てではないが一部、変えている場がある。「凹みマット」は回転系のみ上にマットをおいた。「段差回り」は繰り返し系のときには「段差跳び」にしていた。「やわらかマット」では、同じ場で跳び方を変えて行った。

☆グループ協議

○サーキット・感覚づくりの運動・場の設定について

- ・場の設定がよかった。課題に沿った場になっていた。手を前につけている児童がいたので、手を手前につくための線などがあつたらさらに意識できた。
- ・細分化されていてよかった。伸膝台上前転につながるポイントがしっかり入っていたよかった。
- ・壁ドン意識は突き放しをしていた子そのまま跳んでいる子がいた。先生と子どものねらいの差があったのでは。

- ・場の設定について、6つの跳び箱が近かったのではないかと。横に落ちるととなりの子とぶつかるので、体育館を横向きに使うととなりとの距離があいたのではないかと。
- ・本時の課題とスモールステップのつながりはどうだったのか。学習を進めていくなかで、スモールステップの場も精査していてもいいのではないかと。
- ・サーキットの時の教師の立ち位置は安全面と指導の面でどこに立つか難しかった。
- ・ゆりかごの場は伸膝台上前転とは合っていなかったように思うが、全体としてよかった。

○ポイントタイムとスキルアップタイムについて

- ・スキルアップでは、置いてあるタブレットを見ずに行っていた。声かけなども行えるとよかった。
- ・膝を伸ばすためには、太ももに力を入れるなど、どのようにすればできるかがわかると具体的なアドバイスになると思う。
- ・振り返りを見ると、アドバイスも時間を追うごとに明確になっていた。
- ・学習カードも普段から使っているのでもううまく使えていた。
- ・学習カードと見比べてアドバイスができていた。
- ・教え合いはしっかり見ようとしていた。どのようにしたらできるかまでは、話ができていなかった。
- ・スキルアップは個人で活動していたので、全体の場でそれぞれの課題を出し合えていたらよかった。
- ・ICTと学習カードが両方あったのでよかった。
- ・膝が伸びているか伸びていないかのチェックになっていたので、どうすればよいかのアドバイスができればさらに深まった。

○ICTの効果的な活用について

- ・運動量も多く、タブレットはスムーズに活用できていた。
- ・ICTは、普段から使うことが大事だと思った。
- ・画面越しに見ている児童が多かった。実際の活動を見てほしかった。
- ・通常録画と遅延録画をうまく使い分けることができていた。

○その他

- ・見学していた児童の役割について、感覚づくりをしているときの学びはあまりなかったのではないかと。
- ・少し膝が曲がるのが早かったのではないかと。子どもの体に対して、跳び箱が小さかった。踏み切り距離調整板をはさんで、踏み切り板と跳び箱の間を空けたり、段数を上げたりすると腰が開き、膝がより伸びたのではないかと。
- ・伸膝台上前転のアナログンとして、大きな前転がどこまでできているか気になった。

☆指導助言 奈良県教育委員会保健体育課指導主事 岩垣和徳先生より

- ・「あの技ができるようになりたい」など目指したい姿が見つかることが、主体的・対話的で深い学びを実現するための条件になってくる。そのためにも教師の支援が大切になってくる。
- ・単元の導入に工夫があったので、児童の高まりが感じられた。
- ・見学者の学習内容については、視点を与えて参加させていた。
- ・子どもたちが技をうまくできるようにという教師の思いがあって、子どもに合わせた場の設定ができていた。学校にある用具で使える物を最大限に生かすことができていた。
- ・ICTの活用については、いつ・どこで・誰が・誰を、などのねらいを明確にして活用する必要がある。2回目の部会では6人グループで使用する予定だったが、3人グループになっていたため、メリハリがあり運動量が

大きく減ったことはなかった。

- ・教え合いは、話したい内容と話す目的がないとうまく話し合えない。運動が苦手な子も教え合いができるように、どこに手をつけているかなど事実を伝え合うことも大切である。
- ・スキルアップタイムは、膝を伸ばすことを意識する場を設定していてもよかった。時間配分は難しいが、スキルアップタイムのあと、課題を克服できたかどうか確かめる機会があるとよかった。
- ・跳び箱運動が苦手な子どもが多いと聞いていたが、どの子も意欲的に活動できていた。
- ・2回目の部会では、実際に場を作って研修できたのがよかった。来年度も今年度のことを生かして研修を進めて行ってほしい。